

施策評価表シート1

平成 28 年度

総合計画 画体系	分野	3	第3章	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	施策統括課	健康づくり課
	施策No.	17	施策名	健康づくりの推進と保健・医療の連携	課長名 (施策統括責任者)	大城 敬宏
	関係課	保険年金課 健康づくり課 学事課 富士大和温泉病院 三瀬診療所				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	市民一人ひとりが、健康づくりと疾病予防に取り組み、健診等により病気の早期発見・早期治療につなげるとともに、安心して医療が受けられることにより、地域でいきいきと健康に暮らしている。
取組方針	市民一人ひとりが健康に暮らしていくために、ライフステージに応じた健康づくりの支援や疾病予防などに努めます。また、安心して生活に欠かせない救急医療体制の確保と中産間地域の医療の充実に取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象(誰、何を対象としているのか)*人や自然資源等	全ての市民					
意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	市民一人ひとりが、健康づくりと疾病予防に取り組み、健診等により病気の早期発見・早期治療につなげるとともに、安心して医療が受けられることにより、地域でいきいきと健康に暮らしている。					
成果指標 A						
毎年(3年以上継続して)、何らかの健診を受けている市民の割合						単位 %
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標
56.0	58.3 55.3	59.5	60.7	61.8	63.0	70.0
成果指標 B						
生活習慣病の指導対象者の割合(佐賀市国保特定健診受診者)						単位 %
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標
56.7	55.5 57.9	55.0	54.4	53.9	53.3	50.0
成果指標 C						
健診結果を自らの健康管理に活かしている市民の割合						単位 %
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標
76.1	76.7 71.0	77.1	77.4	77.7	78.0	80.0
成果指標 D						
						単位
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標
成果指標 E						
						単位
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標

施策評価シート2

3. 施策の前年度成果結果の振り返り

単年度目標の達成度	B. 概ね達成	左記評価の理由	27年度の目標値と実績を比較したところ、92%～95%の達成率となっており、施策として目標を概ね達成していると考えられる。
必要性(市民・社会ニーズ)	A. 増加している	左記評価の理由	出産、子育て等に関する保護者の不安や悩み、また死亡原因における生活習慣病割合など、保健事業による対応が必要な状況は、増大傾向にあり、施策の必要性は増加している。

4. 市民意向調査結果及び住民意見等

市民意向調査の結果				施策タイプ別	
施策の重要度		施策の満足度		タイプⅠ：優先して改善を要する施策	タイプⅡ：現状の水準を維持する施策
重要である	56.9%	満足している	7.6%	施策の重要度が高いが、満足度が低いもの	施策の重要度が高く、満足度も高いもの
ある程度重要である	34.2%	どちらかといえば満足	55.4%		
あまり重要ではない	2.1%	どちらかといえば不満	20.5%	タイプⅢ：検討を要する施策	タイプⅣ：改善の必要性が低い施策
重要ではない	0.2%	不満である	3.8%	施策の重要度が低く、満足度も低いもの	施策の重要度が低いが、満足度が高いもの
2/36位		3/36位			

寄せられる意見や要望・その対応

- 子どもの健診について、小児科医の不足のため、市医師会から事業の効率化を求める意見が出されている。
- 健診や相談において、悩みを聞いてもらえることに対する感謝の声が寄せられている。
- 自らの医療費に対し、何らかの関心を寄せている市民は多く、医療費通知発送後は特に問い合わせが多い。
- 特定健診より多くの検査を受けられる人間ドックや脳ドックの実施を望む意見がある。
- 医療体制の充実については、重要度が高いと感じている人が多いため、現状の医療体制を維持すると共に充実に向け、関係機関との連携を強化する。
- 救急医療についての円滑な情報提供が求められているため、正しい情報を適宜提供していく。

5. 施策の課題

- 生活習慣病の患者が増加傾向にあるため、医療費の増大や要介護者の発生に大きくつながっている。
- 特定健診については、毎日健診、ミニドック、ヘルスサポート事業などに加え、公民館健診の実施や、さまざまな受診勧奨等を行っているが、受診率は30.6%（速報値）である。

【市内の救急医療体制】

- 佐賀中部保健医療圏に位置する佐賀市には、県庁所在地ということもあり、休日等のこども診療所、歯科診療所といった初期救急医療施設

から病院群輪番制病院などの二次救急医療機関、県立病院好生館や佐賀大学医学部附属病院といった救命救急センターがあり、比較的充実しているが、緊急時に市民がこれらの情報を円滑に取得できるよう、周知を図っていく必要がある。

【中山間地の医療体制】

- 平成24年4月、富士大和温泉病院内に佐賀大学医学部附属病院地域総合診療センターを開設し、総合内科医2名による総合診療科の

診察を開始しており、この医療提供体制を安定強固なものにしていくことが求められている。

6. 課題解決のための今後の取り組み

- 増加傾向にある生活習慣病の早期発見・早期介入をするため、特定健診の受診率を上げるべく、受診勧奨等に取り組む。
- 妊娠期からの生活習慣病予防に取り組み、早期予防に取り組む。
- 糖尿病重症化予防が課題であるため、指導優先者を明確にし、丁寧な指導をすることで住民自らが健康管理を行えるよう支援する。